

第3期中期目標期間（4年目終了時評価）に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人旭川医科大学

1 全体評価

旭川医科大学は、地域医療を担う人材の育成を設置の原点とし、教育・研究・医療・社会貢献等の更なる発展を目指している。第3期中期目標期間においては、グローバルな視点を持ち国際社会でも活躍できる医療人の養成、基礎研究を臨床応用・実用化につなげイノベーション創出を果たすための研究環境整備と研究成果の社会還元、学長のリーダーシップの下での安定した財務基盤の構築を主な目標としているほか、他機関との産学官連携や医療機能連携の推進・強化、外国人の受入れや国外への情報発信の推進、高度急性期医療と先進医療の両立、多職種協働による質の高い医療提供体制の構築等を基本的な目標に掲げている。

中期目標期間の業務実績の状況及び主な特記事項については以下のとおりである。

	特筆	計画以上の進捗	順調	おおむね順調	遅れ	重大な改善
教育研究						
教育				○		
研究				○		
社会連携			○			
その他			○			
業務運営			○			
財務内容			○			
自己点検評価			○			
その他業務			○			

（教育研究等の質の向上）

卒業後に附属病院で卒後臨床研修を希望するマッチング者数が増加するとともに、北海道内に定着して地域医療に従事する者の割合が高くなっている。その中でも、道北・道東等の医師不足地域に就職した卒業生は、平成28年度の12名から平成30年度の34名と増加している。また、医学科の「高大病連携によるふるさと医療人育成の取組」は、北海道内の高等学校及び病院と連携し、高校生による医療問題学習や医療体験実習を通じて医療人となる意思を涵養するものとなっており、参加人数は年々増加している。

一方で、「教育に関する目標」の項目1事項及び「研究に関する目標」の項目1事項について、「中期計画を十分に実施しているとはいえない」ことから、改善に向けた取組が求められる。

（業務運営・財務内容等）

大学所有の土地の一部を事業者に貸し付け、事業者の負担により病院アメニティ施設建物を新設するとともに、駐車場を増設している。これにより、病院利用者の利便性が増すとともに、病院駐車場の混雑が緩和するのみならず、土地の貸付料と建物の賃借料を差し引いた収入も得られている。

2 項目別評価

I. 教育研究等の質の向上の状況

<評価結果の概況>	特筆	計画以上の進捗	順調	おおむね順調	遅れ	重大な改善事項
(I) 教育に関する目標				○		
①教育内容及び教育の成果			○			
②教育の実施体制				○		
③学生への支援			○			
④入学者選抜			○			
(II) 研究に関する目標				○		
①研究水準及び研究の成果			○			
②研究実施体制等の整備				○		
(III) 社会連携及び地域に関する目標			○			
(IV) その他の目標			○			
①グローバル化			○			

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けておおむね順調に進んでいる

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（中項目）4項目のうち、3項目が「順調に進んでいる」、1項目が「おおむね順調に進んでいる」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（教育）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

1-1 教育内容及び教育の成果等に関する目標（中項目）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）3項目のうち、3項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

1-1-1 (小項目)

【判定】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

1-1-2 (小項目)

【判定】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

1-1-3 (小項目)

【判定】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

1-2教育の実施体制等に関する目標 (中項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けておおむね順調に進んでいる

(判断理由) 「教育の実施体制等に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 3項目のうち、2項目が「進捗している」、1項目が「進捗していない」であり、これらを総合的に判断した。

1-2-4 (小項目)

【判定】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

1-2-5 (小項目)

【判定】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 新型コロナウイルス感染症下の教育

新型コロナウイルス感染症による影響下においても、学生の学修機会を確保するため、学修管理システムmanabaとZoomとの併用による授業を実施しており、教員に対して授業方針等に関する説明会を行うとともに、操作に習熟していない教員を対象にハンズオンセミナーを開催している。

1-2-6 (小項目)

【判定】 中期目標の達成に向けて進捗していない

(判断理由) 中期計画の判定において「中期計画を十分に実施しているとはいえない」がある。また、「大学院教育における研究の進捗確認の状況」に改善を要する点が指摘されたため、小項目の達成が見込まれない。

<特記すべき点>

(改善を要する点)

○ 大学院教育における研究の進捗確認の状況

大学院教育の組織体制に関し、研究の進捗状況の確認は看護学専攻(大学院修士課程)では指導教員のみ任されており、また医学専攻(大学院博士課程)では学生へのアンケートの実施予定にとどまっており、研究の進捗状況を確認できる教育・研究指導體制の整備は見込まれない。(中期計画1-2-6-1)

1-3 学生への支援に関する目標 (中項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「学生への支援に関する目標」に係る中期目標(小項目)が1項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。

1-3-7 (小項目)

【判定】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

1-4 入学者選抜に関する目標 (中項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「入学者選抜に関する目標」に係る中期目標(小項目)2項目のうち、2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

1-4-8 (小項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

1-4-9 (小項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 高等学校・病院との連携推進

医学科の「高大病連携によるふるさと医療人育成の取組」は、北海道内の高等学校及びその地域の病院と連携し、高校生による医療問題学習や医療体験実習を通じて、医療人となる意思を涵養するものとなっている。各高等学校での活動と年に1回の発表会から構成され、その参加人数は年々増加しており、入学者に占める本プログラムの参加者の割合も増加傾向にある。(中期計画1-4-9-1)

○ 地域医療を担う人材の育成

高大連携活動を経験した新入生が増加傾向にあり、将来出身地に戻り地域医療を担う人材の増加が期待される。なお、事業開始前の医学科卒業生のうち、北海道内で初期臨床研修を開始した者は50%前後で推移していたが、事業開始後は80%前後まで増加している。(中期計画1-4-9-1)

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けておおむね順調に進んでいる

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標(中項目)2項目のうち、1項目が「順調に進んでいる」、1項目が「おおむね順調に進んでいる」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果(研究)を加算・減算して総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

2-1 研究水準及び研究の成果等に関する目標(中項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」に係る中期目標(小項目)2項目のうち、2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

2-1-10(小項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

2-1-11(小項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

2-2 研究実施体制等の整備に関する目標(中項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けておおむね順調に進んでいる

(判断理由) 「研究実施体制等に関する目標」に係る中期目標(小項目)が1項目であり、当該小項目が「十分に進捗しているとはいえない」であることから、これらを総合的に判断した。

2-2-12 (小項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて十分に進捗しているとはいえない

(判断理由) 中期計画の判定において「中期計画を十分に実施しているとはいえない」がある。また、「研究基盤強化につなげるPDCAサイクルの状況」に改善を要する点が指摘されたため、小項目の達成が十分に見込まれない。

<特記すべき点>

(改善を要する点)

○ 研究基盤強化につなげるPDCAサイクルの状況

間接経費の弾力的な運用に関し、配分方法の見直しにより研究支援体制の強化が図られているものの、研究基盤強化につなげるPDCAサイクルの確立は見込まれない。(中期計画2-2-12-1)

(Ⅲ) 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」に係る中期目標(小項目)2項目のうち、2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

3-1-13 (小項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 医師不足地域への就職者増加

卒業後に附属病院で卒後臨床研修を希望するマッチング者数が増加し、北海道内に定着して地域医療に従事する者の割合が高くなっている。道北・道東等の医師不足地域に就職した卒業生は、平成28年度12名から平成30年度34名と増加している。(中期計画3-13-1)

3-1-14 (小項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

(Ⅳ) その他の目標

(1) その他の目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「その他の目標」に係る中期目標(中項目)が1項目であり、当該中項目が「順調に進んでいる」であることから、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

4-1 グローバル化に関する目標(中項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「グローバル化に関する目標」に係る中期目標(小項目)が1項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。

4-1-15 (小項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

(2) 附属病院に関する目標

看護職者のキャリア開発や生涯学習を支援するため看護職キャリア支援センターの設置など看護の質の向上に取り組んでいる。また、臨床研究支援センターを整備するなど、臨床研究支援体制の強化を図り、基礎研究シーズの臨床応用を推進している。診療では、道内を中心とした国内外59の医療機関とネットワークを形成し遠隔医療を推進するとともに、『ジャパン インターナショナル ホスピタルズ』による認定を取得するなど国際医療の推進を図っている。

<特記すべき点>

(優れた点)

(教育・研究面)

○ 臨床研究支援体制の整備

臨床研究支援センター専任の副センター長・准教授の新たな配置するなどにより支援体制の整備を図るとともに、学内の教員等へ個別に助言等を行えるよう手続きや相談窓口を整備することなどを通じて、臨床研究支援体制の整備を推進している。

○ 看護職キャリア支援センターの設置

医学部看護学科と病院看護部が、連携・協働の下、専門職業人としての看護職者のキャリア開発や生涯学習を支援し、看護の質の向上を図ることを目的として、平成31年3月に看護職キャリア支援センターを設置している。

(診療面)

○ 遠隔医療の推進

道内を中心に、国内50、国外9（4カ国）の医療機関と遠隔医療ネットワークを形成しており、リアルタイムでの遠隔医療（診療・手術の指導や術中迅速病理組織診断等）及び非リアルタイムでの遠隔医療（MRI・CT・X線等の遠隔画像診断等）（稼働実績：年平均5,969件）を行っており、平成28年度から、インターネット上のクラウドに送られてきた患者情報を当院の専門医がスマートフォンで閲覧し、診断や治療方針のアドバイス、病院への救急搬送の必要性の有無の判断などを行う「クラウド型救急医療連携支援事業」を実施している。

○ 国際医療の推進

平成31年4月より外国人患者対応のために、総合案内に通訳者1名を配置するとともに、平成29年9月からタブレット型端末による機械翻訳及び通訳オペレーターを介した通訳サービスを導入したことに加え、令和2年3月にはオペレーター不要の通訳端末（ポケットク）も6台導入するなど、国際医療の推進を図り、令和元年9月に外国人患者受入れに適した医療機関として、受入れ体制や取組を評価する『ジャパン インターナショナル ホスピタルズ』による認定を取得している。

(運営面)

○ モバイル遠隔医療の推進

平成28年度から開始した「クラウド型救急医療連携支援事業」において、スマートフォン等のモバイル端末が遠隔医療に有用であること、また、医師間のコミュニケーションが活発化し、業務効率も向上することを明らかにし、平成30年度から、研修医を含む全医師にスマートフォンを配付し、クラウドを介して地方病院を支援するモバイル遠隔医療の推進及び当院患者へのサービスの更なる向上を目的とした医師同士の診療情報の共有化を行っている。また、業務用SNSを活用し、当院スタッフ間のコミュニケーション活発化による院内業務の効率向上を図っている。

○ 地域医療ネットワークの充実

地域医療ネットワーク（たいせつ安心iネット）の利用促進について院内での広報等を実施し、登録患者数の拡大に伴い、紹介・逆紹介・転院等に伴う診療情報共有の推進が図られており、地域医療機関でも活発に活用されている。

また、地域の医療機関115施設との連携協定を締結し、病病連携及び病診連携の充実を図っている。地域医療連携室の事務職員及びMSWを増員し、完全予約制や逆紹介の推進、退院支援、2人かかりつけ医制等による病院機能強化の検討とともに、実施に向けた体制の整備を行っている。

Ⅱ. 業務運営・財務内容等の状況

<評価結果の概況>	特 筆	計画以上の進捗	順 調	おおむね順調	遅れ	重大な改善事項
	(1) 業務運営の改善及び効率化		○			
	(2) 財務内容の改善		○			
	(3) 自己点検・評価及び情報提供		○			
	(4) その他業務運営		○			

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 中期計画の記載10事項全てが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。
--

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 中期計画の記載7事項全てが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 中期計画の記載2事項全てが「中期計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。
--

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 中期計画の記載6事項全てが「中期計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 多様な財源を活用した施設整備

大学所有の土地の一部を事業者に貸し付け(事業用定期借地権設定)、事業者の負担により病院アメニティ施設建物(鉄骨地上2階建、約1,180㎡)を新設するとともに、駐車場(200台分)を増設している。これにより、病院利用者の利便性が増すとともに、病院駐車場の混雑が緩和するのみならず、土地の貸付料と建物の賃借料を差し引いた収入も得られている。